

3月23日(土) 鬼島太鼓調布公演 青春を弾つ！

恒例となりました鬼島太鼓の定期公演が開催されました。

今年で、10回目となるこの公演では、調布市と木島平村のかけ橋役で、大きな貢献をしている鬼島太鼓（会長小林春彦氏）へ調布市及び調布市議会より感謝状と、記念のバチが送られました。調布市と木島平村は、昭和60年8月に姉妹都市盟約を締結し、スポーツや芸術、農産物の販売等様々な交流を行っています。



馬曲地区にマイクロ水力発電機を設置

木島平村は、昭和63年10月に馬曲温泉公園を開設し、その動力として馬曲川発電所を所有しています。

発電した電気を、地方自治体が観光施設に活用している事例は少ないとされており、馬曲川発電所を毎月多く方が訪れるようになりました。

しかしながら、既存の馬曲川発電所が目に見えるものではないため、今回、目に見える形で、馬曲地区にマイクロ水力発電機を設置しました。

この水車は移動式で、要件をクリアすれば、どの水路でも設置が可能です。

発電量は水量にもよりますが、概ね20w程度。LED外灯であれば、3つ程度の利用ができます。

今後は、村内の水路に設置をして、小水力発電の普及啓発に努めていきます。



会報原稿募集中!

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。

【送付先】〒389の2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

fax 0269の82の4121 ☐ kicho@kijimadaira.jp まど

早春の木島平のレクリエーション

さいたま市 清水正明（中村出身）

3月も半ば過ぎると、一面深い雪に覆われ静かに時が流れていた木島平にも春が近付いている兆しとして、時折夕方から柔らかな雨が降るようになった。

翌朝、村人達の目には、青空の下に思い切り開放された雪原が輝いていた。

長い冬の間、閉ざされた灰色の山あいから、目を見張る広い新鮮な空間への変転である。温かみを帯びた雨によって僅かに溶かされた雪は、夜明けの低温で凍った表面を持つならかな純白の起伏を作っている。

子供達は、「かんじき」を履かない長靴でこの起伏の上を歩いても、雪の中へ深く落ち込まないことを知っているから、歓喜の声を上げて雪上を駆け回った。

この時期に村中の大人から子供までが心待ちしている行事は、「野ウサギ狩り」である。これは、3〜4ヶ月間の雪に閉ざされた生活から人々は交友を取り戻す機会であり、また新鮮な動物性蛋白質を口にする嬉しい集まりなのだ。当時の生鮮食品の流通は、世界第二次大戦終結の直後という事情もあり、現在とは比較できないほど貧弱であった。



やっとの思いで手に入れた魚介類は、「干からびた身欠きにしん」、「塩の塊に埋まったサケの切り身」であり、また「アンモニア臭を振りまくなまタラ」であった。それも、運が良ければ手に入るという状態であった。

春が近づく毎に降る回数が増える雨によって、雪の表面に十分に厚い氷の層ができた朝、近所中を触れ回る知らせによって冬支度の男女や子供達は、「捕らぬタヌキの皮算用」ではないが、たくさんさんのウサギを捕まえようとばかりに打ち揃って高社山の麓へと向かった。

これは、冬籠りから目覚めたばかりの「野ウサギ」を追いついて捕らえ、「ウサギ汁を楽しもう。」と、参加者全員が力を出す一大作戦である。

冬の間に欠乏している動物性蛋白質の補給もさることながら、老若男女全員による一大リクリエーションである。

屈強な若い男達は、野ウサギが潜んでいると思われる斜面のはるか上まで登り、やがて大声を出しながら凍った雪の上を駆け下り、野ウサギを狩り出した。麓ではこの野ウサギを捕まえようと、村人が挙って待ち構えている。その日は数回これを試みたが、野ウサギたちは本能的に身の危険を感じていたのか、ついに1匹も表われず、幸運にも受難から逃れる結果となった。

狩りを取り締まる古老の「もう雪は固まることもあるまい」の判断から今春の狩りは終りとなり、野ウサギの肉一片も入っていない「ウサギ汁」のご馳走に預かり、全員が早春の朝のリクリエーションを心から楽しんだ。

現在の木島平村では、「野ウサギ狩りなどは、以ての外」のお叱りが出るであろうが、未だ鮮明に覚えている70年近い昔の木島平村の早春の思い出である。